

学術研究講演会 「これから課題研究を始める仙台一高生のために」



令和 7 年 5 月 20 日 (火) 6、7 校時に、5 階多目的教室で学術研究講演会が実施され、生徒 321 名が参加しました。本講演には、東北大学大学院生命科学研究科准教授の酒井聡樹氏にお越しいただき、これから課題研究を行う私たちにに向けて、講義をしていただきました。

講演の主な内容

①研究とは何か

- ・研究とは、人類にとって未解決であり、多くの人が解決を望んでいる問題(学術的問題)に取り組むこと。

②意義のある問題に取り組もう

- ・研究では自分が興味を持つテーマを選びそれを他者の興味にするために研究の意義を訴えることが大切。

③解答できる問題に取り組もう

- ・解答の見通しが立つ問題に取り組む。
- ・設備・資金・時間の制約内で解答できる問題に取り組む。

④説得力のある主張とは

- ・結論を導くためのデータ・事実が足りているか、他の解釈がないか検討する。

⑤研究の進め方

- ・仮説を立ててから、仮説を検証する研究計画を立てる。
- ・取り組む問題が完全には解答できない場合、解答できるものに問題を変更する。
- ・研究ノートに、研究の進捗をしっかりと記録することが大切。

～参加者の感想～

研究とは未解決問題を解決したり、解決に貢献したりすることであり、自分がただ気になったことを調べるのではないということが分かった。問題に取り組む意識をしっかりと理解して研究を行うことが、学術研究では必要になると再確認できた。自己満足で研究を進めないように気をつけようと思った。

自分は今まで、学術研究は「自分」が興味を持ったことなら題材は自由だと思っていたが、意義のある研究を行うためには、「他者」が興味を持ち、解決を望む題材を見つけることが大切だと知り、はっとさせられた。また、研究における仮説の大切さにも気づくことができた。

学術研究では、自分の興味だけで調べるのではなく、なぜその研究をするのかを自分自身でも考え、他者が興味を持つように主張や伝え方を工夫することが大切だと気づいた。

この講演によって、自分たちの班のテーマが、学術研究のテーマとして本当に適しているかどうかを考えたときに、ただ実験をして終わるかもしれないと気づいたので、今回の講演で学んだ学術研究テーマを決める上での注意点をよく確認し、改めてテーマを考えたい。

研究をするときに、自分の興味を他者(受け取り手)の興味にすることで、自分の研究結果の意義を証明できるということを大切にすべきだと初めて知った。また、他者の興味を引くような文章を組み立てることで、いい研究だった、役に立つ内容だったと考えられるようになり、価値を見出せることが分かった。今まで私が悩んでいたことに当てはまるため、今後の研究やポスター発表に生かしていきたい。主題を変更するように柔軟に進むことが、停滞するよりも大切であるということに興味を持つ勇気をいただいた。

課題研究は、ただ闇雲に研究を行うのではなく、テーマ設定や結論の導き方など意識すべき点が多くあり、それらを守って研究をしなければ意味が無いということに気づいた。また、研究ノートを作ることで改良のヒントを見つけやすくなるため、研究を行うときには、ノートを誰が見ても分かるように作ろうと思った。

《編集後記》

今回の講演会を通して、研究の奥深さと、自分達が描いていた研究のイメージと実際の課題研究との相違点に気づかされた。研究のプロからの貴重な講演を無駄にせず、より良い課題研究にしていこうと改めて決意した。初めてのSRtimes編集で、不慣れなことも多々あったが、講演に参加した人もしなかった人も、本紙を読んで、研究に対して見つめ直してみしてほしい。